

【学会情報】

ニュージーランドワインと
コヤマワインズ/マウントフォード・エステートの現状

小山竜宇¹・沢田 泉^{2,3}

¹コヤマワインズ/マウントフォード・エステート (ワインメーカー)

²コヤマワインズ/マウントフォード・エステート (取締役)

³医療法人 友愛会 理事長

Current Status of Enology and Viticulture in NZ and Koyama wines

Takahiro KOYAMA¹ and Izumi SAWADA^{2,3}

¹Winemaker, ²Managing Director at Koyama Wines/Mountford Estate

³President at Healthcare Corporation YUAIKAI

1. はじめに

このたび、京都大学農学部内において、日本ブドウ・ワイン学会西日本地域研究会の第 18 回研究集会発表会において、ニュージーランド (以下 NZ) におけるブドウ栽培、ワイン醸造及び、著者が当地で関与するコヤマワインズ及びマウントフォード・エステートの現状について、発表する機会を頂いたので、ここに総括を述べる。

2. NZ におけるブドウ栽培の歴史

ブドウ栽培の歴史は意外と古く、1836 年にイギリスからの移民で、醸造学者であったジェイムス・バスビーが、NZ 北島北部、ワイタンギの自宅畑でブドウ栽培を始めたことに由来する。その後 1851 年に、ローマカトリック教会によって、現存する最も古いブドウ畑が、ホークスベイ地区に作られた。ただ、初期に生産されたブドウのほとんどは、当時 NZ で飲まれていた、ポートやシェリー等の酒精強化ワイン用として消費されていた。

3. NZ ワインの歴史とその経緯

1973 年にイギリスが欧州経済共同体に加入するのに伴い、EU 内での輸出入の活性化により、NZ の農業政策も大きな変革を迫られることとなった。特に主な

産業であった、肉製品、及び乳製品の輸出状況が一変し農業政策の大きな転換を余儀なくされた。そこで、注目されたのが、乾燥した気候と、肥沃でない土壌でも栽培可能なブドウ栽培であった。特に 1970 年代後半にモンタナ社が、南島マルボロ地区でソーヴィニヨン・ブラン種の栽培を始めて以来、ようやく高品質な NZ ワインの歴史が始まったと言える。

NZ は、世界のワイン産地の中でも、最後発のワイン産地と言われ、実際に国際ワイン市場で NZ ワインの評価が高まってきたのは、2000 年代に入ってからのことである。まず、イギリス市場で注目を集め、その後、アメリカ、オーストラリア、アジアへとその販路は拡大されていった。ニュージーランド・ワイン growers (NZ 政府関連のワイン管理組織) 発表の資料によると、ワイナリー数と栽培面積の増加は、ともに 2000 年から 2010 年にかけて最も著しく、ワイナリー数は 2000 年の 358 社から、2010 年には 672 社と約 2 倍に増加し、作付面積も、10,197 ha から 33,428 ha と約 3 倍に増加した。またワイン産業の発展につれ、ニュージーランドワインの輸出額も、2008 年の約 8 億ドルから 2017 年には約 16.6 億ドルと、2 倍以上の売り上げを記録している。8 月の研究会では、主にニュージーランドワインの発展と現状について発表をさせて頂いた。

NZで現在栽培されているワイン用ブドウの約75%

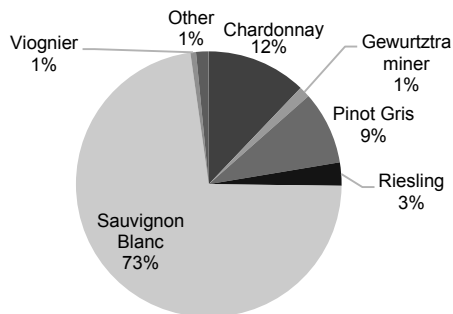
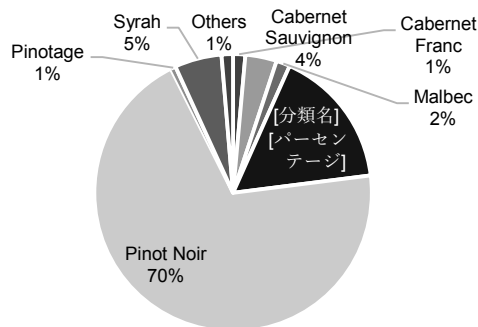


Figure 1 白ワイン用品種内訳 (Data from New Zealand Winegrowers website)

は白ブドウ品種で、その内訳はソーヴィニヨンブランが約73%、シャルドネが12%と続いている。(Figure 1). 一方、赤ワイン用ブドウ品種の約70%をピノ・ノワールが占め、メルローの16%、シラーの5%と続いている (Figure 2) .

NZの主要なブドウ産地の気候は、海洋性気候に属し、生育期間中の有効積算温度(Growing Degree Days)はCentral Otagoの850°CからGisborneの1300°Cまでである (Figure 3). この気候帯は、フランスの各産地と比べると、シャンパーニュ地方の900°Cから、ボル

ドー地方の1300°Cの間に位置しており、世界のワイ Figure 2 赤ワイン用品種内訳 (Data from New Zealand



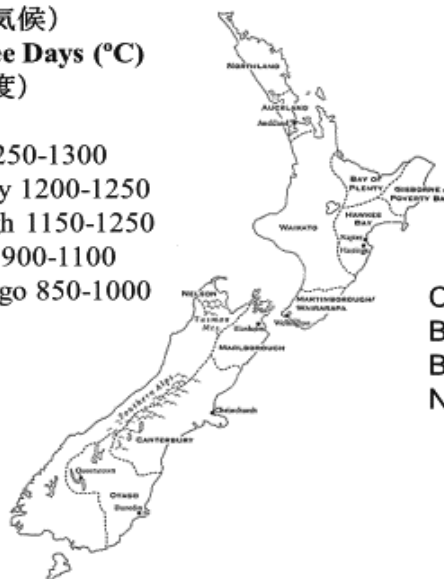
Winegrowers website).

ン産地の中では冷涼気候に属していると言える。

世界的に見たブドウの生育期間中の平均気温と、NZの各ブドウ産地の生育期間中の平均気温の相関関係 (Figure 4) からみても、アルザス系品種 (ピノ・グリ、リースリング、ゲヴェルトツトラミネール等)、ソーヴィニヨンブラン、シャルドネ、ピノ・ノワールといった品種がこの国にブドウ産地に適していると考えられる。NZのブドウ産地の主な土壌は、Aggradation Gravel と呼ばれ、氷河の働きによって堆積した砂利質土壌である。

NZ has a cool, maritime climate
(海洋性冷涼気候)
Growing Degree Days (°C)
(有効積算温度)

Gisborne 1250-1300
Hawkes Bay 1200-1250
Marlborough 1150-1250
Canterbury 900-1100
Central Otago 850-1000



Champagne 900
Burgundy 1100
Bordeaux 1300
Napa 1650

Figure 3 Growing Degree Days of New Zealand Wine Growing Regions.

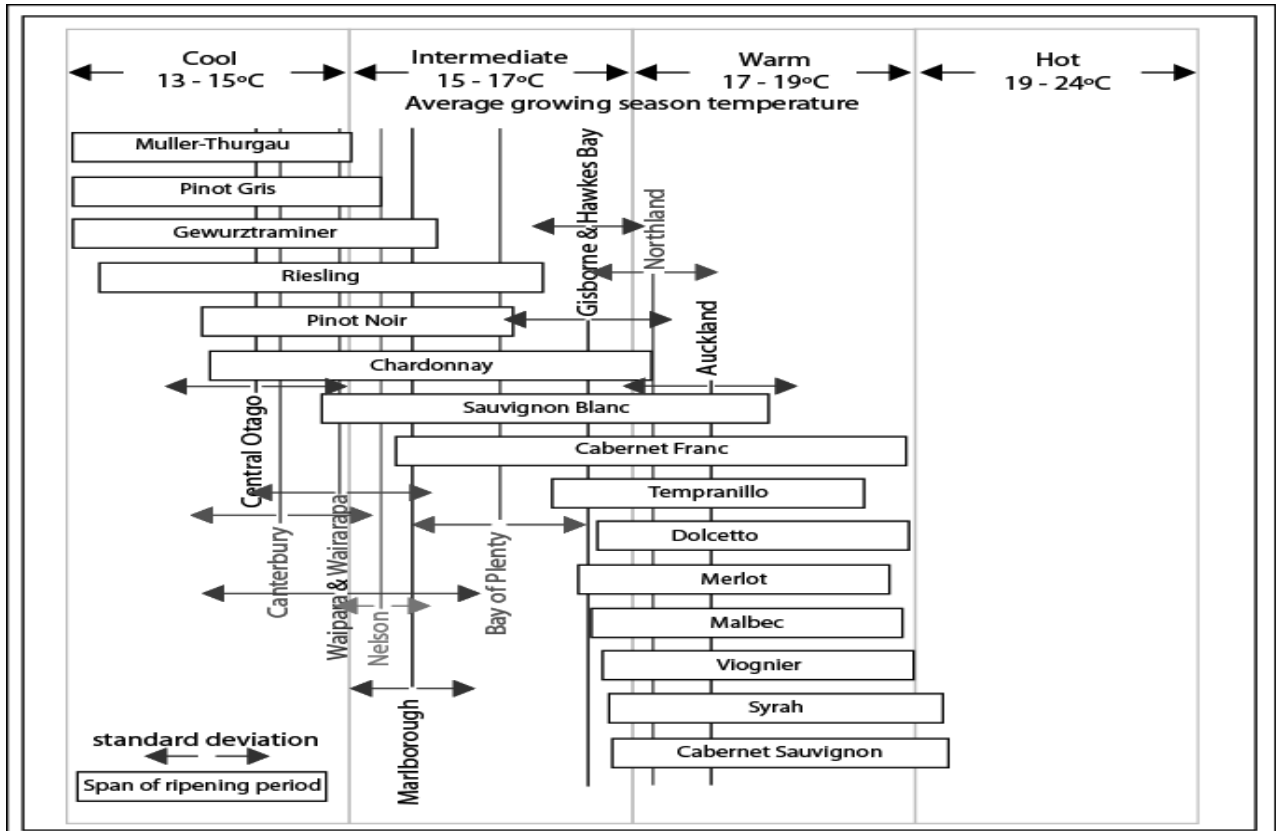


Figure 4 The relationship between New Zealand Wine growing region and average growing season temperature of world premium wine production.

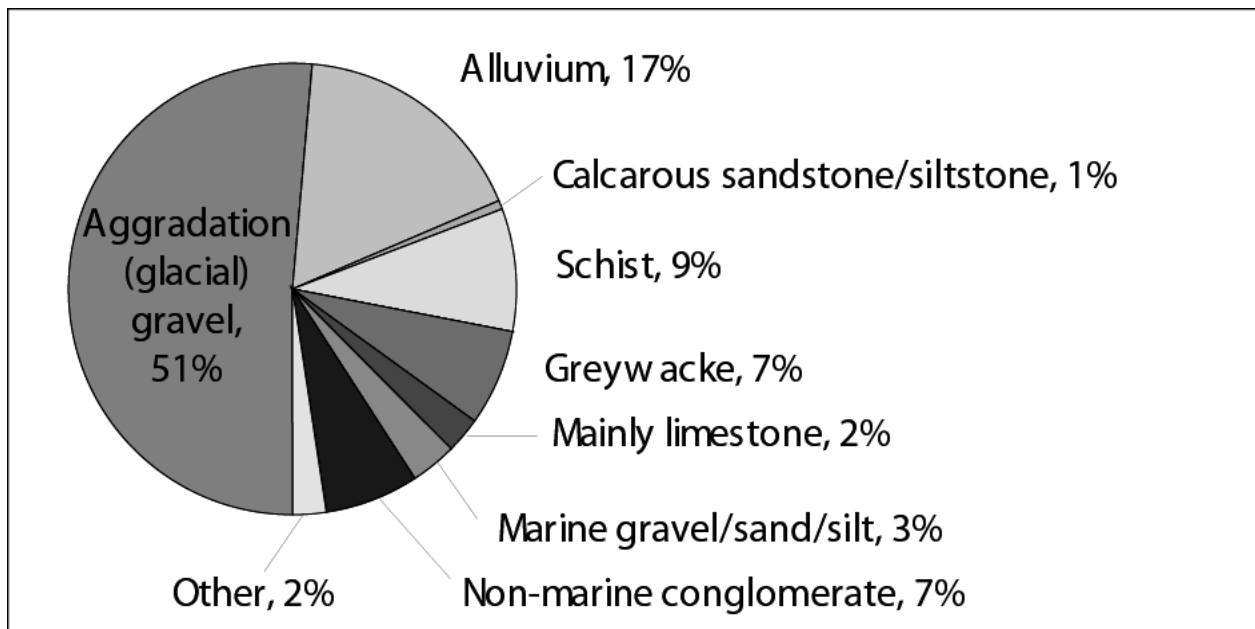


Figure 5 Soil types of New Zealand Winegrowing regions.

ワイパラ・バレーの東側斜面, ワイカリ, ノースオタゴといった一部の産地に, 石灰岩土壌が見受けられる (Figure 5).

4. コヤマワインズとマウントフォード・エステートについて

1) コヤマワインズの経緯

筆者がリンカーン大学農学部醸造学科を 2007 年に卒業後、マウントフォード・エステートに就職。在職中の 2009 年に、自身のレーベル「コヤマワイン」としてピノ・ノワールとリースリング、2 品種のワインをリリース。2013 年には、「コヤマワインリミテッド」を設立し独立。ワイパラ・バレーの優良ブドウ栽培農家と契約し、ネゴシアンとしてスタートを切った。その後、縁あって本年 4 月に自社畑として、古巣のマウントフォード・エステートを買収、傘下に収め、今日に至っている。

2) ブドウ栽培に適したワイパラ・バレー

同地は NZ 南島、南緯約 43 度に位置し、西側を南アルプス山脈、東側をテビオットデールと呼ばれる丘陵地帯に挟まれた南北に延びる谷である。春から夏にかけての NZ の雨は、主に西からの湿った風によってもたらされるが、この南アルプスの山脈が、生育期間中の雨を遮り、また東側のテビオットデールの丘陵地帯が、カンタベリー地方全体を冷涼にする南極からの寒流がもたらす冷たい海風を、遮る。これによってワイパラ・バレーは、乾燥した、昼夜の寒暖差の激しい、ブドウ栽培に適した土地となっている。年間降水量は約 500–600 mm で、その大半は秋から冬にかけてもたらされる。有効積算温度は 1000 から 1100 で、これはフランスのブルゴーニュとほぼ同じである。そのため、温暖な気候に適した、ボルドー系、ローヌ系のブドウ品種はほとんど栽培されず、赤はピノ・ノワール、白はソーヴィニヨンブラン、リースリング、ピノ・グリ、シャルドネ等が主に栽培されている。また、ワイパラ・バレーの土壤構成は、約 90% が Aggradation Gravel で、東側の丘陵地帯にのみ、石灰岩質土壤が存在している。コヤマワインズでは、この 2 種類の土壤で育てられるブドウから、それぞれ特徴の異なるピノ・ノワールのワインを製造している。

3) マウントフォード・エステート

同ワイナリーは、Michael & Buffy Eaton 夫妻によって 1991 年に設立されたワイナリーである。NZ の栽培学者であり、醸造家でもあった Daniel Schuster 氏をコンサルタントに迎え、ワイパラ・バレーの東側丘陵地帯の石灰岩質に、ピノ・ノワールとシャルドネの畑、約 4 ha を開拓した。1997 年に、台湾出身の盲目の醸造家、CP Lin 氏を醸造責任者として迎えて後、イギリスの著名ジャーナリストである Jancis Robinson 氏を始め、世界各地で高評価を得、2012 年にはイギリスのジャーナリスト Matthew Jukes 氏とオーストラリアのジャーナリスト、Tyson Stelzer 氏によるニュージーランドピノ・ノワールの格付けにおいて、4 つ星を獲得した (Figure 6)。

ワイン造りにおいてもっとも重要な要素の一つは、当然ではあるが、質の良いブドウを安定的に確保することである。マウントフォード・エステートは、NZ でもまれな石灰岩質土壤と、樹齢 26 歳を迎えるピノ・ノワールとシャルドネのブドウ畑を有しており、醸造家としても、将来的に大きな期待と可能性を感じている。

同エステートでは、2000 年以降、徐々に栽培面積を拡張し、2017 現在、10 ha の土地にピノ・ノワール、シャルドネ、リースリングが栽培されている。

コヤマワインズ/マウントフォード・エステートの今後の展望としては、現存するワインの生産に加え、急斜面の畑からのブドウによる上級キュベの生産、メソッド・トラディショナルによるスパークリングワインの生産を計画している。同ワイナリーは、私が 2003 年に NZ に渡った後、初めて醸造を学んだワイナリーでもあり、またアシスタントワインメーカーとして 6 年間勤務した縁深いワイナリーでもある。よって畑のパフォーマンスと特性を最も理解していると自負している。そしてこれまでに、ドイツ、イタリア、オーストラリア、カリフォルニア等で培った醸造経験を基に、試行錯誤を繰り返しながら、この素晴らしいテロワールのパフォーマンスを最大限に生かした、最高のワイン造りをしたいと考えている。

MATTHEW JUKES 2012 TYSON STELZER

THE FIFTH GREAT NEW ZEALAND
PINOT NOIR
 CLASSIFICATION

FIVE STARS
 Ata Rangī Bell Hill
 Felton Road Mt Difficulty

FOUR STARS
 Craggy Range Dry River Escarpment
 Martinborough Vineyard Mountford Pegasus Bay
 Peregrine Pyramid Valley Rippon

THREE STARS
 Bald Hills Carrick Chard Farm Cloudy Bay Dog Point Envoy
 Forrest Hinton Huia Jackson Mount Edward Neudorf Palliser Schubert
 Seresin Surveyor Thomson Two Paddocks Valli Villa Maria Wither Hills
 Te Whare Ra

TWO STARS
 Akarua Alan McCorkindale Alana Amisfield Auntsfield Blind River
 Foxes Island Gibbston Valley Gladstone Gravitas Hunter's Nautilus Olssens
 Pisa Range Quartz Reef Rockburn Saint Clair Spy Valley TerraVin Voss Wooing Tree
 Cambridge Road Delta Greywacke Johner Ma Maison Mount Maude The Ned Utlar

ONE STAR
 Framingham Fromm Highfield Kumeu River Lawson's Dry Hills Lowburn Ferry
 Montana Murdoch James Prophet's Rock Trinity Hill 8 Ranges Alexandra Allan Scott
 Archangel Aurora Black Quail Burn Cottage Camshorn Catalina Sounds Charcoal Gully
 Churton Desert Heart Doctors Flat Domain Road Esk Valley Grasshopper Rock
 Hawkshead Isabel Judge Rock Julicher Jurassic Ridge Kaituna Valley Lime Rock
 Mahi Marisco Michelle Richardson Mondillo Mt Beautiful Mud House Muddy Water
 Nanny Goat Northburn Station Odyssey Pond Paddock Sacred Hill Staete Landt
 Tarras Te Hera Thornbury Vavasour Waipara Springs Wild Earth Wild Rock

The Great New Zealand Pinot Noir Classification is awarded by Matthew Jukes and Tyson Stelzer based on a rolling average rating of the five most recent vintages. Light font is used to position estates for which we have yet to taste five vintages.

BORDEAUX HAS ITS 1855 CLASSIFICATION, BURGUNDY ITS APPELLATION
 HIERARCHY, AND, SINCE 2008, NEW ZEALAND HAS HAD
 THE GREAT NEW ZEALAND PINOT NOIR CLASSIFICATION
 THE DRINKS BUSINESS, MARCH 2012

ONE OF THE MOST INTELLIGENT
 WINE RATING SYSTEMS YET DEvised
 THE SOUTHLAND TIMES, APRIL 2012

Figure 6 The Great New Zealand Pinot Noir Classification by Matthew Jukes and Tyson Stelzer.